

■第二次スクリーニング優先度評価結果

地点番号	盛土名称	第一次スクリーニング									
		盛土造成地の位置	盛土造成地の規模				大規模盛土造成地の抽出				
		所在地	面積 (m ²)	原地盤面の勾配 (度)		高さ (m)	谷埋め型	腹付け型	現地での確認		大規模盛土造成地の種類
				α	θ		面積 3000m ² 以上	原地盤面の勾配20度以上、かつ高さ5m以上	必要性	結果	
1	四季の丘団地	山梨県大月市 猿橋町藤崎地内	45,650	8.0	—	27.4	—	—	要	谷埋め型	—
2	工業団地	山梨県大月市 富浜町宮谷地内	35,280	10.0	—	14.8	—	—	要	谷埋め型	—
3	特別養護老人ホーム 大月富士見苑	山梨県大月市 大月町真木地内	59,100	8.0	—	39.4	—	—	要	谷埋め型	—
4	ゆりヶ丘団地	山梨県大月市 賑岡町ゆりヶ丘地内	97,840	14.0	—	39.8	—	—	要	谷埋め型	—
5	パストラルびゅう 桂台①	山梨県大月市 猿橋町桂台地内	50,940	16.0	—	88.2	—	—	要	谷埋め型	—
6	パストラルびゅう 桂台②	山梨県大月市 猿橋町桂台地内	69,000	36.0	—	71.3	—	—	要	腹付け型	—
7	パストラルびゅう 桂台③	山梨県大月市 猿橋町桂台地内	121,210	10.0	—	79.5	—	—	要	谷埋め型	—

地点番号	盛土名称	第二次スクリーニング計画																						
		優先度評価																		その他			想定被害形態	
		①盛土/擁壁の形状・構造						②変状					③	④	⑤造成年代		⑥変動確率		優先度(従来)	優先度(新)	保全対象			既存調査結果 (土質・地下水・N値等)
																					住宅	公共施設等		
のり面勾配	小段間隔	保護工	のり面	ひな壇部分	擁壁構造		宅地地盤	擁壁	のり面	周辺施設		地下水	盛土の下の不安定土層	造成年代		変動確率(%)				住宅	公共施設等			
1	四季の丘団地	標準	標準	標準	標準	練石(不適)	非該当	無	無	無	無	無	無	不明	S55	後	70.8 (数量化Ⅱ類)	大	A3	経過観察	56軒	有	不明	擁壁倒壊
2	工業団地	標準	標準	標準	標準	練石	該当	無	無	無	無	無	無	不明	S57	後	65.7 (数量化Ⅱ類)	大	C	経過観察	18軒	無	不明	擁壁倒壊
3	特別養護老人ホーム 大月富士見苑	不適	標準	標準	標準	なし	非該当	無	無	無	無	無	あり	不明	H元	後	84.0 (方式1)	大	A1	経過観察	5軒	無	不明	地形的要因により 崩壊には至らない変形
4	ゆりヶ丘団地	標準	標準	標準	標準	練石	該当	無	無	無	無	無	無	あり	H元	後	10.8 (方式1)	小	A4	経過観察	95軒	無	あり	擁壁倒壊
5	パストラルびゅう 桂台①	標準	標準	標準	標準	なし	該当	無	無	無	無	無	無	不明	H5	後	10.8 (方式1)	小	C	経過観察	89軒	無	あり	地形的要因により 崩壊には至らない変形
6	パストラルびゅう 桂台②	標準	標準	標準	標準	なし	該当	無	無	無	無	無	無	不明	H5	後	42.4 (方式1)	小	C	経過観察	132軒	無	あり	地形的要因により 崩壊には至らない変形
7	パストラルびゅう 桂台③	標準	標準	標準	標準	なし	該当	無	無	無	無	無	無	不明	H5	後	10.8 (方式1)	小	C	経過観察	無	無	あり	地形的要因により 崩壊には至らない変形

【用語解説】

変動確率	変動確率盛土の安定性を概略評価するものです。変動確率は、盛土形状、地山勾配及び地下水の有無等を変数パラメータとし、既往災害事例の統計処理結果に基づいた計算式から得られ、その値が大きいほど優先度が高いと評価します。
保全対象	滑動崩落により危害が生ずるおそれの大きい範囲において、収集した資料や現地踏査などをもとに、大規模盛土造成地上及び周辺に存在する「住宅の戸数」や「公共施設等の有無」を示しています。

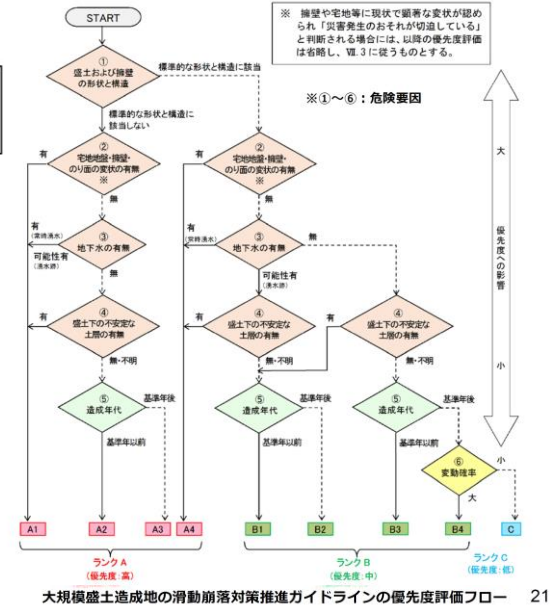
【優先度評価(従来の方法)】

早期に第二次スクリーニングを実施すべき盛土の考え方

【現行のガイドライン】

- 第二次スクリーニングの優先度評価**
- 第一次スクリーニングで抽出した大規模盛土造成地について、全箇所の現地踏査を実施。
 - 右図の優先度評価フローで第二次スクリーニングの優先度をA～Cランクに区分し、順に第二次スクリーニングを実施。

盛土が多数存在するなどの場合、簡易地盤調査の実施等により、早期に第二次スクリーニングをすべき優先度の高いものを選定（フローは次ページ）

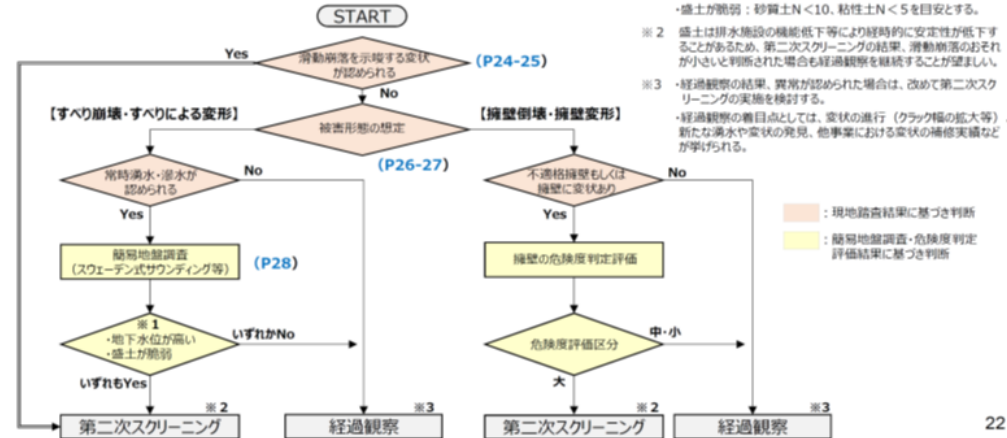


大規模盛土造成地の滑動崩落対策推進ガイドラインの優先度評価フロー

【優先度評価(新たな考え方)】

早期に第二次スクリーニングを実施すべき盛土の考え方

- 【新たな考え方】 盛土が多いなどの場合に、早期に第二次スクリーニングをすべき優先度の高いものを選定するフロー**
- 現に滑動崩落を示唆する変状が認められる場合は、速やかに第二次スクリーニングを実施。
 - 変状が認められない場合、
 - ・被害形態が「すべり崩壊・すべりによる変形」と想定される場合は、すべりの主要因である地下水位に着目。簡易地盤調査を実施し、地下水位が高くかつ盛土が脆弱な箇所は早期に第二次スクリーニングを実施。
 - ・被害形態が「擁壁倒壊・擁壁変形」と想定される場合は、擁壁の危険度判定評価を実施し、危険度大の箇所は早期に第二次スクリーニングを実施。
 - 早期に第二次スクリーニングを実施しないものについては、当面変状などの経過観察を行う。



22